

目次

【文芸部門入賞作品】

作文の部	2
------	---

【選評】 川田永子 先生

詩の部	11
-----	----

【選評】 原田勇男 先生

短歌の部	16
------	----

【選評】 上林節江 先生

俳句の部	18
------	----

【選評】 鈴木三山 先生

川柳の部	21
------	----

【選評】 水戸一志 先生

文芸部門審査総評	24
----------	----

【書画部門入賞作品】

絵画の部	26
------	----

【選評】 吉田利弘 先生

ポスター・カレンダーの部	31
--------------	----

【選評】 鈴木智枝 先生

毛筆の部	34
------	----

【選評】 村山柳雅 先生

硬筆の部	39
------	----

【選評】 村山柳雅 先生

書画部門審査総評	43
----------	----



作文の部

審査員

東北アララギ会「群山」同人（其の一）
日本歌人クラブ会員
宮城県芸術協会会員

川田 永子 先生



「希望の木」を読んで

青葉女子学園 ライト

私は、「希望の木」という絵本を読みました。正直、読書感想文はとも苦手なので、書きたくありませんでした。本自体を拒否してしまったりもしました。でも、担任の先生の指導を受けて、実際にやってみたら、すっかりするかなと思って、やりきることを決めました。やってみると、実際にすっきりした気持ちになって、先生たちからも沢山ほめられて、頑張っ
て取り組んで良かったなど、今は思っています。

「希望の木」、この題名を聞いて、皆さんはどのような「木」を想像しますか？私は、強くて、勇敢な木を想像しました。この絵本では、「希望の木」こと、東日本大震災の3・11巨津波を生き抜いた一本の松の木が主人公として登場します。皆さんも聞いたことがあると思いますが、岩手県陸前高田市にあった高田松原七万本の松のうち、一本だけ生き残った「奇跡の一本松」としてニュース報道もされた松の木のが描かれています。

震災当時、私はまだ子どもでしたが、これまでに経験したことのない大きな揺れであったことを覚えています。母も仕事場から帰ってくることでできなくなり、とても怖かったです。近所の駐車場にも地割れができていました。

でも、その私の経験や想像を超えるほどに辛い思いをした人、また、し続けている人もいるのだと改めて思いました。多くの人々の命や当たり前の日常を一瞬にして奪い去り、生き抜いた人々にも深い傷を残しました。私は、この災害の記憶を未来に伝えていく必要があると思いました。

この絵本には、その震災の怖さやそこから立ち直ろうとする人たちの希望が描かれていました。物語は、奇跡の一本松を人間にたとえ、「レイラ」と名付けるところから始まります。巨大津波が来た日、レイラは恐怖から両手で耳を塞ぎ、目を閉じてしまいます。気が付くと高田松原に生え

ていた七万本の松の木は全て死に絶え、レイラ一人だけが生き残っていました。

ある晩、レイラは家族の夢を見ます。夢で再会した家族は、懐かしそうに微笑み、会話も尽きることはありません。しかし、悲しいことに別れの時はやってきます。レイラは、家族に向かって、「ひとりぼっちにしないで」と叫びます。レイラの叫びに対し、家族は、あの日のことを話し始めます。あの日、高田松原に生えていた七万本の松の木たちは、一人残らず身をよじり、両スクラムを組み、レイラを津波から守ろうとしました。レイラは、両親に尋ねます。「なぜ、私一人だけ守ろうとしたの？」すると、「たったひとりだけでいい、生き残ってくれさえすれば、松の木のいのちを未来へ伝えることができるからね。」「あなたはみんなの希望なのよ。希望の木なのよ。」と言われました。

夢から覚めた時、レイラは、死を願う気持ちから、家族の分も生きよう！それが、自分に託された使命なのではないかと考えるようになっていました。

レイラは接ぎ木をされ、今は、四人のかわいい子どもたちを育てています。そして、いつか、新しく蘇る高田松原七万本の松の木のおかあさんになることを夢見るところで物語は終わります。

私は、この絵本をとおして、災害は人だけではなく、生きるものの全ての命を奪い、残された者の生活までも奪っていく恐ろしさを改めて学びました。また、命がけで守った小さな命がやがて、巨大な命に繋がっていく様子に生命力の力強さを感じました。

最後に、災害はいつ起こるかわかりません。大切な人に大切だと伝えることも備えの一つなのではないかと思いました。大切な人に、万が一のときにもまた再会できるように、避難場所・集合場所を話し合っておくことで、いざというときに困らなくて済むし、慌てなくて済むと思いました。当たり前の日々を大切にし、他人事と思わず、災害の知識を学び必要な非常時のリュックを準備しておきたいと思いました。万が一、災害が起きた

場合には、ボランティアに参加したり、自分にできる支援を行いたいと思いました。

寸評

東日本大震災の時に、陸前高田市の松原七万本の殆どが流され、一本だけが残ったと言う事実を知った。其の一本の「レイラ」の命が、やがて更なる新しい命を産み出す。そして、未来を切り開くのだと読書によって知った。此の現実を見詰めつつ、今後は日常を大切にしたいとの感想を順序良く述べています。



諦めない才能

東北少年院 A・N

私は、これまで常に「自信」や「能力」といった言葉に囚われ、悩み、固執してきました。それと同時に自分を卑下したり、自信を持てなくなったり、「どうせ自分なんて」等、卑屈になることも沢山ありました。

さて、いきなりですがここで自分にも、その他の人にも一度問いかけたと思います。「才能とは一体何なのか。天才とは何を基準にしてそう呼ぶのか。」

私は、人には天才と凡才がいると思っていたので、自分のことを凡才で能力の乏しい人間だと決め付けていました。その理由は単純で、失敗や挫折が多かったからです。

私は、これまでの人生の多くを水球に打ち込んできました。少しマイナーかと思いますが、水中の格闘技とも呼ばれる、とても激しいスポーツです。私はこの水球に、全てとは言いい切れませんが、多少のものは犠牲にしてきました。友達が遊んでいる時も練習に励み、ゲームや本を読む時間を削り、トレーニングをする等、周りよりも努力したつもりになっていました。そのため、自信に満ち溢れていて、レギュラーを勝ち取り試合で活躍できるのは当然だと思っていました。実際、中学生の頃は順調で、私のチームは全国大会にも出場し、好成績を収めました。多少の失敗や上手くいかないこともありました。私は天才だと思い込み、挫折を知らない少年として、私立の高校に進みました。入学当初、私は様々なポジションでプレーできるということで監督にも先輩にも重宝され、更に自信が付きしました。そのため、私は自信だけでなく、自分は余裕だと思いました。しかし、実際に部活が始まると、中学生の頃とは比べものにならないくらいにハードでした。全然ついていけず、辛い苦しいといった気持ちしかなかったのですが、その思いとは相反するように期待されていた自分がいたので、その場では必死になり、ギリギリでついていくことで限界でした。しかし、私以外の

仲間、大半が涼しい顔をしており、初めて挫折に近い感覚を味わうことになりました。この時、私は天才ではなかったことに気付く、自信を失うことになりました。更に、その後、追い打ちをかけるようにして、試合には出れず、練習メニューはキツくなる一方で、徐々にについていけなくなる、自信を完全に失くしてしまい、情けないことにも、挫折を知らなかった自分は、いとも簡単に心が折れてしまいました。また、その後は、部活を立て続けに何日もサボりました。この時は、水球を辞めたいと思うまで落ち込んでいました。しかし、長年続けてきたものを手放すことの方が練習よりもキツく辛いことに気付く、再度、部活に戻ることを決めました。但し、暗澹たる思いは変わらず部に戻り、練習に参加すると、驚いたことに、高校から水球を始めた初心者の同級生が、始めてたったの二ヶ月で練習試合に出ていて、更にはシュートも決めていました。それを見た私は咄嗟に、「天才」という言葉が脳裏を過ぎりました。しかし、その考えは一瞬で消え去りました。何故なら、そのチームメイトは、始めた頃は上手ではなく、お世辞にも才能に恵まれているとは言えない状態でした。しかし、その子は、水球に必要な泳力に長けていて、それをプレーに活かしていました。また、練習では誰よりも努力していたと思います。私は、そんな仲間の姿を見て、天才とは、天才と呼ばれるほどの努力をしていて、元々完璧な人間はいないということにも改めて気付かされました。多少は潜在能力や才能には個人差があるかもしれませんが。実際、私も要領が良くない人間です。それでも、努力は裏切らないことを信じて前を向きました。その次に、インターハイに出場すること、試合で活躍することを目標に掲げました。そして最後に、自分の努力次第ということを踏まえた上で、サボった分も取り戻そうと必死に努力した結果、実際に目標を達成することが出来ました。

私は高校で水球を辞め、それからは何をしても中途半端で、「自分は何をやってもダメだ」とか、人よりも劣っている等、自信を持てず、頑張っている人を見ても、鼓舞されることなく、天才は違うの一言で見て見ぬ振

りをしてきました。しかし、私は、最初から諦め、己の限界を勝手に決めつけることで自分の考えや言動を肯定してきました。しかし、それは全て間違いで、私は、失敗を恐れて挑戦できない人間に戻ってしまっていたと思います。また、努力の大切さを忘れて、見失っていたと思います。それに、自信は、ついてくるものでもなければ、つけるものでもないと思います。大事なものは、自分を信じるための意志と行動力だと思います。また、努力と自信は比例することが多いと思います。つまり、自信が持てない原因は努力不足にあり、それを補うには、やはり努力や経験しかないと思います。私は今、その当たり前のようなことに自らの手で改めて気付くことが出来ました。決して遅くはないと思います。自信を持ったり、目標を達成させるために、努力を惜しまない人間になりたいと思います。

また、何事にも「始まり」は存在します。それに、失敗は怖く、避けたいという思いも誰にでもあると思います。もし仮に、「才能」や「能力」という言葉を使うのであれば、それは、ものごとの結果ではなく、そこに至るまでの努力する能力、失敗を恐れない強い心、恐れても挑戦できたり、始めることができたり、「諦めない才能」かなと思います。これは、私にも備わっているもので、できることだと思います。それならば、今、この瞬間から、その「能力」を存分に発揮していこうと思います。

もしかすると、「天才はいない」とか「能力は関係ない、始めから完璧な人はいない」といった考えは、私の都合の良い解釈かもしれません。自信や結果には努力が必要で、大切というのも杞憂かもしれません。しかし、私はそれでも構わないと思います。時には、都合の良い捉え方も大切で、思い込みの方向性も間違っていないと思います。それに、努力するに越したことはなく、失敗が多くても、人間は失敗する生き物なので、そこから学びを得て成長すれば、成功と言えると思います。実際に、それを証明するかのように「失敗は成功の元」という言葉もあります。正直、そうは言っても失敗は怖いのですが、絶対に諦めることなく、挫けず、努力できる人間になりたいと思います。努力は必ず裏切らない。失敗は努力の無駄では

ない。その捉え方は間違えないようにしようと思います。努力は成功への道のりですが、約束ではありません。それでも私は絶対に、目標達成のため、自分のため、人のために努力し続けたいと思います。有名なサッカーのトッププレイヤーも、こう語ります。

「努力は報われるものではない。報われるまで努力するのだ」と。

寸評

水中の格闘技とも言われる「水球」の選手として活躍。其の後の挫折体験を順直に表現されています。才能に花咲かせる為の挫けない努力が、絶対に必要なのだと自己反省する心根が伝わる文章。「努力は報われるものではない。報われるまで努力するものだ」との引用文での締めが効いています。



私は少年院に来て良かった

青葉女子学園 ホワイトタイガー

私は、少年院とは罰を受けるところだと思っていました。けれど、違いました。少年院とは色々な事を学ぶところでした。少年院に来た事によって学べた事の中から私が最も大事だと思った事が四つあります。

まず一つ目は、当たり前の事なんて一つも無いという事です。私は、社会当時「当たり前じゃん。」と口ぐせになっていました。生きている事、家族がいる事、出来る事が増える事など、当たり前だと思っていました。気づいたきっかけは、高卒認定試験前日や当日だけでなく毎日応援してくれた先生方や家族がいたからです。会う度「頑張ってね。」とか、「勉強いっぱいしてきたから大丈夫。」と元気づけてくれました。科目の先生は、分かりやすく教えてくれたり、まとめてプリントにしてくれたり、コメントをくれたり、色々な事をしてくれました。私は、ここまで応援されたり、自分のために頑張ってくれる人を見たりして、当たり前なんてないんだと感じる事ができました。人のありがたみがわかると人との接し方も変わると思いました。

二つ目は、相手や周りは変わってくれないという事です。嫌な事や納得がいかないと周りのせいにしてしまいがちです。私も気を付けてはいるものの人や物のせいにしてしまいます。私は何度も注意を受けました。そして、私は自分が相手に期待して求めているものがあつたと気づきました。教えてもらった、「自分が変われば周りも変わる。」という事です。謙虚に接すると、謙虚で接してくれたり、嫌な対応をすれば嫌な対応をされたり、色々な場面があります。私は、「相手が」「周りが」と思わなくなったら、自分が楽になりましたし、自分には絶対得るものがあると思いました。気づくのには何年も掛かってしまいましたが、知れるきっかけが今あつて良かったと思っています。自分への自信にもつながると思います。そして、後悔やストレスが減少しました。周りに勝手に期待をして勝手にイライラして、

もつたいないと思えました。

三つ目は、支えてくれる人がいる事です。先生、家族だけではなく、様々な場面で私は支えられている事に気づきました。支えてもらう事も全然当たり前ではなく、恵まれていると思います。気づくまでは、何かある度、「うざいな」とか「嫌い」と親に対して思っていました。そして、たくさん悲しませて泣かせてきました。少年院にいる私に親は、今もたくさん支えてくれています。忙しいのに手紙を書いてくれたり、遠いのに面会に来てくれたり、応援や心配をしてくれています。本当に私の心の支えとなっています。それに、先生方にもたくさん支えられています。担任の先生は一番、私の支えとなっています。けれど、寮の先生やここにいる先生達全員に支えられています。私は少年院に来る前、支えてくれる人なんていないと思っていました。私は支えられてる実感がないと感じていました。それを考えると、私は人を支えてこなかったのではないかと思います。そこから私は、社会に出たら人を支えられるように今するべき事をしていきたいと改めて思いました。また、支える前に人をしっかり大事にしたいと思うっています。

四つ目は、自分を甘やかすのではなく自分を好きになるという事です。私は、とても自分が大嫌いでした。今でも嫌いになりそうな事は、あります。そんな時、教えてもらった事があります。それは、自分を好きになると自信につながるという事です。それを聞いて、自分が好きになれなくて自信がなくなり不安になっていた事に気づきました。今私は、少しずつ自分を好きになれ、自信が付き始めています。毎日、姿勢を正す、笑顔でいる、ほめられるなど小さい目標をクリアし積み重ねる事で、私ってこんな事ができるんだって思い、自信につながっています。私は、教えてもらった事が無駄にならないためにも、少年院にいる期間だけでなく、社会に出てもからも続けていこうと思います。

最後に、少年院はたくさんさんの事を学べる場所であり、償いにつながる場所だと思います。怒られる事もほめられる事もありましたが、私は怒った

りしてくれる先生方に感謝しかありません。私は残りの期間、やるべき事をやり、流石一級生と言ってもらえるように頑張りたいと思います。そして、自分を好きになって出院します。

寸評

「少年院」とは罰を受ける所ではなく、色々な事を学ぶ所であると言う事を知ったと箇条書きにした作文。つまり、以前は何かに付けて自己嫌悪に陥った。しかし、励まして呉れる学校の先生や院の先生方の優しい指導に依って正しい方向が見えて来た。今後は、「流石一級生」と言われる程に頑張るとの意志が、しっかり伝わります。



決意

東北少年院 W・Y

僕は少年院に来て様々な事を学び、世界が広がったと感じます。そう思えるまでに至るには言うまでもなく、人との繋がりがから生まれる支えがありました。今でこそ人との繋がりの大切さを感じられるようになりましたが、社会当時の僕は全くそうではありませんでした。この作文ではそんな自分が少年院生活を通して経験し、学んだ事、そして今後どのように生きていきたいかという事を書いていこうと思います。一人一人、抱えている問題は違えど、何かを感じて少しでも参考にしていただけたら幸いです。

まず僕が道を踏み外してしまうようになったのは小学二年生の頃からです。この頃から僕の家庭では、両親は毎日のように喧嘩ばかりをしています。物が飛び交い、家の扉や窓ガラスは壊れ、警察が来て僕まで連れていかれる事もありました。僕はこの頃から両親を憎み、幼いながらに世の中の不平等さや諦めを感じるようになりました。そのような生活の中で生まれる不安や不満を爆発させるように、僕は学校で暴れるようになり、ルールに反するという事に対しても何も思わなくなっていました。それどころか当時は、そうして何も考えず人に迷惑を掛けるような事をしていて、時だけが自由を感じ、生きている実感を味わえる瞬間でした。それからしばらくして両親は別居するようになり、そのタイミングで僕の行動も一時期と比べると落ち着くようになりました。しかし、味わったスリルや解放感は忘れられるものでもなく、度々問題を起こしながら小学校を卒業しました。中学に上がると年上の不良と関係を築き、本格的に非行に走るようになりました。小学生の頃に味わった開放感の更の上にいく解放感を知った僕は一直線に非行の道を進むようになりました。捕まっても、不良交友が少年院に入っても、自分はこの関係を切るつもりありませんでした。まだ当時はこの繋がりが本物で、逆にそれ以外は本物ではないと思っていたました。しかしそのままズルズルと時が経っていくにつれて、非行でしか

繋がる事のできていない交友関係や目標ができても前に進む事を妨害し合う関係に嫌気が差すようになりました。次第に一区切りつけなければと考えるようになったものの、今まで都合の良い人間関係しか築いてこなかった僕は一人で抱え込み、追い詰め、結果的にその状況すらも非行で何とかする事が最善なのだという考えに行き着いてしまい、それが元となり本件非行を起こし少年院送致となりました。今までの失敗とは違い、「変わりたい」と思っていたにも関わらず、結果が真逆だった事に危機感を覚ええました。

少年院に来てからは、このままと同じ事の繰り返しだという事が確信へと変わっており、自分と向き合えるようになりました。加えて、漢字検定で教科賞を取るという目標を達成する事ができたり、様々な資格を取得する事ができました。そのような生活の中でも悩みを抱えたり、壁にぶつかる事がありましたが、乗り越える事ができたのは先生方の支えがあったからです。面白い話をしたり、時には真剣に自分の事を考えて厳しい事を伝えてくれた時もありました。高認試験では数学を何人も先生から教えていただき、中には数時間を自分の為に割いてくれた先生もいました。担任の先生は、自分の採用面接に向けて助言やエールを送ってくれました。当日は担任の先生が休みだったにも関わらず、自分の為に応援しに来てくれました。そんな支えがあったからこそ苦しい事があっても折れずにやってこれましたし、未来に希望を持てるようになりました。

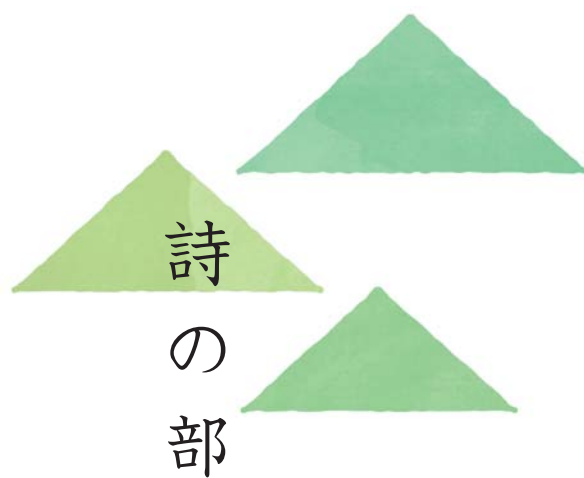
僕は今まで、関わりたい人だけ関わってやりたい事だけをやる事しか考えていませんでした。嫌な事、苦しい事から徹底的に逃げ続け、偽りの自由を求め続けました。しかし少年院で現実と向き合う事ができたからこそ、都合の良いだけでは無い本物の人との繋がりが、努力の仕方、支え合いを知りました。

今後の人生は逃げではなく、自分で道を切り拓いていこうと思います。基本的に僕は自由というものを大切にしたいですし、やりたい事はやって悔いの残らない人生にするつもりです。しかし、その為には必ずやりたく

ない事もやらなければなりませんし、向き合うべき現実と向き合わなければそれはただの身勝手ではないかもしれません。目指すべき人生をモチベーション、軸にしてまずは新たな環境で出会う人達との繋がりを大切にしたいです。決して都合の良い事ばかりではないと思いますが、信頼関係を自分から築いていく意識は常に持ち続け、頼ったり頼られたりという事ができる暖かい居場所を支えに困難とも向き合っていこうと思います。そしていつかは僕も少年院の先生方のように人に寄り添って、手を差し伸べる事のできる大人になりたいです。

寸評

家庭では、両親が喧嘩ばかりの暗い日々であった。やがて両親は別居。それで、自分の行動も道を外す様になって不良化してしまつたと、それ迄の様子を具体的に語っています。今後は、院の先生方の優しい指導に感謝しつつ、自分も人を助ける事の出来る道を歩みたいとの反省心が、解り良く綴られています。



審査員
宮城県芸術協会会員
日本現代詩人会会員
日本文藝家協会会員
宮城県詩人会顧問

原田
勇男



本心

東北少年院 O・N

僕には大切で大好きな人が居ます
今までたくさん

傷付け

裏切り

泣かせ

心配を掛けた

強く当たったり

暴言も吐いた

素直になれなかった

恥かかった

それでも見捨てることなく

優しく見守り

助けてくれた

毎日、おいしいご飯を作ってくれた

何気ない日常を作ってくれた

不自由なく生活を送らせてくれた

大事に育ててくれた

あたり前だとは思っていなかったけど

伝えられなかった感謝

「ありがとう」その一言が言えなかった

本当は見せたかったカッコ良い姿

見せてしまったのは情けない姿

僕が見たのは老いた姿

見たくなかったその後ろ姿

さみしくてうめた偽りの愛

求めていたのは母からの愛

助けてあげて、見たかった笑顔

僕が見たのは悲しくて泣く顔

それを見た時に痛んだ僕の心

でも、僕が言ったのはふざけんな

本当に思っていたのはごめんなさい

忘れてはいけない感謝の気持ち

母のおかげで自分がいる

母の有り難みを知った時

それは大人に近付いた時

母を泣かせるのは男として一番恥だ

母を幸せにするのが僕の夢

誰よりも母が一番大好きです

寸評

若い時は自分のことしか考えず、自分にばかりカッコつけて、言葉でうまく表現できないことがある。自分を生んでここまで育ててくれたのに、口をついて出る言葉は悪態だけ。だが、本当は母のおかげで少しは大人になれたし、感謝するしかないと思っている。自分の生き方を反省する日々を送って、やっと母の有難みを感じた「本心」を評価したい。



お父さん

青葉女子学園
スタバ

私のお父さんは 祖父です
ちっちゃいころから お父さんだった
遠くにいたお母さん
一度も会ったことのない実のお父さん
さびしかったけれど 祖父がいてくれた
弱音をはかず 仕事に向かう後ろ姿が
すごく カッコよくて
ときに 厳しさを感じたこともあったけど
今では大切な思い出です
大切なのに 気づけなくて 傷つけてしまった
お母さんからの愛が欲しかった
心のなかの さみしさが 分からなくて
たくさん 見栄や欲望にまみれた 人生だった
身近にいてくれた お父さんからの愛はあったのに
今更だよ ね ようやく 分かったよ
これからは お父さんが教えてくれたこと
私への思い 過去もあやまちも全て 背負って
生きてゆくよ

寸評

「私のお父さんは 祖父です」という印象的な一行から始まる。「遠くにいたお母さん」「一度も会ったことのない実のお父さん」と続いて、複雑でいびつな家庭環境が明かされる。それでも仕事に向かう厳しい後ろ姿を見せて、祖父が私を育ててくれた。そのことによりやく気付いた娘は大切な思い出を抱えて生きていく。これも旅立ちの歌である。



人生

東北少年院 M・D

人生って人それぞれ。今、苦しい時期だったり楽しい時期だったり。でもね、神様はみんなに平等な人だよ。一人だけに楽しい想いをさせて他の人には苦しい想いしかさせないなんていじわるな事はしないよね。

だからこそ苦しくても逃げちゃだめなんだ。前を向いて頑張るしかないんだよね。

自分が苦しい時は他の人に助けてもらい、他の人が苦しい時は自分が助けられる人生にしたい。人生は一人で戦うものじゃない。

みんなで支え合い励まし合い時に叱り合って一歩ずつ進むものだ。一人で十歩進むよりみんなで一歩進んだ方がいいよね。

時に、失敗する事もあるかもしれない。その失敗をなかった事にはできないけど次に生かす事はできる。失敗を繰り返して人は成長する。だから失敗を恐れてはいけない。

成功ばかりの人生なんて面白くないはず。苦しい想いをした分成功時の達成感へと変わっていく。

今までの人生振り返ってみて。苦しい事も今では「そんな事もあったな」くらいにしか思わないでしょ。先の事を考えたら希望の光は見えないかもしれない。何が起るか分からないから。けど神様は乗り越えられる試験しか与えてこないから。大丈夫。自分を信じて。仲間を信じて。

生まれた時に一本の糸が始まる。生きていく中で楽しい時や苦しい時の波があるのは仕方がない。人生を終えて天国に旅立つ時に糸は終わる。人生という波のある糸を引っ張ったらみんな同じ糸になる。長い短い人それぞれだけど同じ糸に変わらない。

胸を張って今を頑張るのが一番。

明日も一日頑張ろう!!

寸評

人生は苦しい時期があれば、楽しい時もある。苦しいからと言って逃げてはいけない。人生は一人で戦うものじゃない。苦しい時は助け合って少しずつ前に進めばいいというのが持論のようだ。現実には理不尽な戦争で多くの人が死んでいるし、暮らしの格差は広がるばかり。それでも失敗を恐れず、それを乗り越えて生きていこうと呼びかけている。



永遠の思い出

東北少年院 A・N

僕は怖かったんだ

あなたを何も知らなかったあの頃

僕は嬉しかったんだ

あなたが僕を優しく受け入れてくれたこと

僕は不安だったんだ

信頼が一方通行ではないかと思った時

僕は楽しかったんだ

あなたと笑い合えた日々の全てが

あなたの笑顔に何度救われたことか

あなたの温かさにどれだけ甘えたことか

僕はあなたから

本当に大切なものが何か教わった

僕は怖いんだ

あなたの傍から離れる瞬間が訪れるのが

僕は嬉しいんだ

尊敬する人から一人前と認められたことが

僕は不安なんだ

一人になっても意志を強く保てるか

僕は楽しいんだ

夢を追いかけることが

到々この瞬間がやってきた

悲しいも楽しいも辛いも嬉しいも

全てが詰まった過去が

現在の僕を生かしている

あなたの励ましと応援が

決断できなかった夢への思いを後押しした

そんな思い出がいっぱいなのに

僕はあなたの傍から離れなければならない

またねは再会の約束だよなんて

悲しい言葉じゃないよなんて言われたら

ありがどうの涙が溢れてきて

尚更悲しんでいるみたいになるじゃないか

でもそんな温かい言葉で送ってくれるから

僕は安心して旅立てる

あなたとの日々を胸に夢を叶えると誓う

思い出は永遠のものだから

寸評

青春はさまざまな感情が入り乱れる。怖かったり、嬉しかったり、楽しかったり、不安だったり。相手の励ましと応援が決断でできなかった夢への思いを後押ししてくれた。そんな思い出がいっぱいなのに、こうして人は何度も旅立ってきたのだ。旅の果てはどのようなのか。夢は果たして叶ったのだろうか。それは未来だけが知っている。

短歌の部



審査員

日本歌人クラブ会員

「地中海」会員

宮城県芸術協会 文芸部運営委員

宮城県歌人協会 「地中海湾の会」代表

上林 節江 先生



夏の夜 虫が鳴いてる よい歌だ
ピカピカ海も 涼しい風も

盛岡少年院 S・K

寸評…耳は虫の音を、目は海を、皮膚は風を、心は「いいなあ（美しいなあ）」とキャッチして一首にしました。三句目の「よいうだ」という思いは、下の句の海にも風にも及び、一首全体をつつんでいます。



審判の裁判官の判決で
母のあの顔 忘れられない

東北少年院 A・Y

寸評…母はどんな表情をしていたのかなと読者は思いますが、その事は前後の表現から想像できますから、これでいいと思います。作者のつつみ持つ悲しみが充分に伝わります。



夏の夜 夜空見上げて 見つけたよ
今日一番の 大きな星を

青葉女子学園 月

寸評…「今日一番の大きな星を発見！」と、弾む心が伝わります。「夏の夜 空を見上げて」とすると重複する「夜」を一つカットできますね。自分の大きな希望の星を見つけるよう努力しましょう。



我が心 朧月のよう 花曇り
母の温もり ふとよみがえる

東北少年院 K・Y

寸評…自分の心を見つめて詠んだ一首。「朧月」「花曇り」と自分の不透明な心を表現しました。しかし、そこには母の温もりも浮かんでくるのですから、そこに救いがありますね。

俳句の部



審査員

現代俳句協会宮城県支部幹事

宮城県俳句協会常任幹事

宮城県芸術協会委員

鈴木 三山 先生



金の川 歩いてみたい 空の道

盛岡少年院 O・R

寸評…夏の夜空を見上げると天の川が綺麗に輝いている。天の川は星たちの集まりなのだが、まるで大空に道があるかのようである。大きな景色を読むと気持ちも大らかになる。



銀のロフトから 君と眺めた 星夜空

東北少年院 K・Y

寸評…キャンプ地でのロフトか、あるいは自分の家のロフトかは分からないが、いずれにしてもそこで眺めた星夜空は、君と一緒にだったから余計にきれいに見えたことだろう。



銀の向日葵のように真っ直ぐ 生きたいな

東北少年院 S・M

寸評…暑いさ中でも茎を真っ直ぐに立てて、大きな花を咲かせる向日葵を見ると、元気をもらえる気がするが、作者は向日葵のように生きたいとしている。いい心がけである。



銅のかき氷 頭キンキン 次はどこ

盛岡少年院 S・S

寸評…暑いさ中は氷を食べるのが一番である。特にかき氷が良いが、急いで食べると頭がキンキンとなる。次はどこがやや不明であるが、頭の次はどうなるのが楽しみである。



銅の五年ぶり 塀の中での 夏祭り

東北少年院 M・K

寸評…コロナ感染のせいで毎年恒例の夏祭りが、五年ぶりに開催されることになったのだろう。塀の中ではあるが楽しみにしていたことが十分に伝わって来る。



銅の寝れぬ夜 蟬が奏でる 子守唄

東北少年院 S・T

寸評…暑い日は夜になってもなかなか気温が下がらず、寝苦しい夜が続くことも多い。そんな中、夜中でも鳴いている蟬の声を聞いていると、まるで子守唄のように思われていつの間にか眠れていたのだろう。



佳

朝起きて 仕事場向かう スイカ畑

盛岡少年院 A・R



佳

夏の夜 打ち上げ花火 癒される

盛岡少年院 S・R



佳

夏の風 近づいてきた 秋の匂い

盛岡少年院 A・R



佳

空見上げ 散って 儂い 夢花火

東北少年院 A・N



佳

スズムシの 奏でる音色 きれいだね

東北少年院 U・M

寸評…朝起きると仕事待っているのだろう。その仕事場に向かう途中にスイカ畑がある。夏の盛りのスイカ畑を見ていると、懐かしさと癒される思いがしたのだろう。

寸評…猛暑が続くと夜になっても熱帯夜となって暑苦しく不快である。そんな中花火大会に出かけ、打ち上げ花火の素晴らしさを眺めていると、この上なく癒されたのではなからうか。

寸評…猛暑が続くと暦の上では秋に入っている、吹く風が涼しくならないものである。しかしそうは言っても風の中には秋の気配を感じさせるものがある。作者はそのことを秋の匂いとして感じ取っているであろう。

寸評…夏休みの夜に花火大会に出かけたのだろうか。打ち上げ花火を見ていると、どんなに豪華できれいな花火でも、一瞬で散ってしまうことに儂さを感じている。

寸評…虫の音色は実に色々で、闇の中で音楽を奏でているように思える。特にスズムシは綺麗な音色で聞きほれてしまうようである。

川 柳 の 部



審査員

宮城県川柳連盟理事

水戸一志先生



ありがとう その一言が 言えたなら

盛岡少年院 I・T



勝ち負けを 決めてばかりじゃ 嫌われる

東北少年院 I・N



推し活は 幸せだけど 金かかる

青葉女子学園 月



わっ遅刻 朝起きほっと ひどい夢

盛岡少年院 K・J



モチベーション 持つも捨てるも 紙一重

東北少年院 A・N



ここへ来て 生きる大事さ 気づけたよ

青葉女子学園 ホワイトタイガー

寸評…この五七五の後にも言葉がありそう。家族、友人、同僚などの人間関係は時としてシビアになる。不満が口をつく前に、相手の心を和らげる一言があれば、世界は変わる。

寸評…シロクロをつけないければ治まらないことも確かにあるが、独善の勝ち負けは、失うものが多い。大人の川柳にも「言い勝った」後の虚しさを悔いる句はたくさんある。

寸評…近年の若者消費を表現する「推し活」。好きなアイドルやアニメ主人公の関連グッズなどを買いまくる。同じファンが多ければ幸せを感じる。同時に、金をむしり取られる現実も。

寸評…書き出しが面白い。悪夢の目覚めをよく書いた。取り返しの付かない失敗ほど怖いことはない。「ああ、夢でよかった」。床の中で感謝にも似た幸福感に包まれる。

寸評…モチベーション、つまりやる気の問題と言っているのだが、高いも低いも紙一重という見方が若者らしい。誰が言ったものでもなく、本人が自分に言っている。そこに希望を感じる。

寸評…テレビドラマのリストカットシーンの続きでないことを祈る。最も大切な「生きる」に気づけたのは大きな進歩だ。周囲の人々も懸命に生きている。見回してごらん。



佳

悔やんでも決して消えない 過去の罪

盛岡少年院 M・K

寸評…過去は消せないという意味ならその通り、常識でしかない。作者の真意は深い反省だと思えるから、佳作に選んだ。これからの道のりは長い。しっかり前を見て行こう。



佳

暑すぎる うちわだけでは夏越せない

盛岡少年院 N・K

寸評…生活環境を憂えたようにも受け取れるが、あっけらかんと平和な表現に救いがある。下五が六音で多少リズムが悪い。「越せぬ夏」がよい。



佳

過去のこと 糧にしながら 前進む

盛岡少年院 N・R

寸評…反省を糧に今後の進み方をしっかり自覚しようという決意の一句。人間臭さを重視する川柳は絵に描いたような優等生をあまり好まないが、古傷には優しい。



佳

ぼくの母 ぼくの代わりに 尻拭い

東北少年院 S・T

寸評…失敗を犯した息子に代わって頭を下げ続けている母。作者には母がどんなに胸を痛めているかが分かるのだらう。必ず、恩返しをしなければならない。句の裏にそう書いてある。



佳

ちよつとまで まだ十代で いたかった

青葉女子学園 緑茶

寸評…法律の成人年齢がどうあれ、十代と二十代の違いは大きい。世間にまだ甘えられる年と許されない年の境目。句には二十歳になることへのかわいい不安が見取れる。

文芸部門審査総評

— 作文の部 —

今回の応募数六編の全てが、甲乙付け難い程にしっかりした表現での作文でした。未掲載で残念ですが、「52ヘルツのクジラたち」を読んでの読書感想文や、「失敗を経て感じたもの」等の作文も、深い思考を重ねつつ表現された事が解る文章でした。

それぞれに過去を省みて、今後の歩むべき真つ当な道を深く見詰めた。そして、人生を大切にしたいとの心境が、沁み沁みと伝わる程に細やかに表現されていて感心しました。

川田 永子

— 詩の部 —

応募総数が五編と少なかった。作者の方々の過ごしてきた家庭環境はさまざまだが、自分の生き方を反省して更生しようという気持ちや濃厚な作品に惹かれるものがあつた。「本心」という作品はその典型だろう。若い人の屈折した心理がそのままほとばしり出ている。「お父さん」という作品も、祖父がお父さんという書き出しが衝撃的であつた。より良い人生を切り開いてほしい。

原田 勇男

— 短歌の部 —

短歌で大切なのは、しみじみとした思い（抒情）です。入賞の四首は、それぞれに見つめる対象をしみじみとした情感を込めて詠んでいて良いと思いました。

今回、特に目についた事柄は次の三点です。

1 五官（眼、耳、舌、鼻、皮膚）を使って、具体的に表現する大切さ。具体物を入れて表現すると訴えたいことが読者に伝わりやすくなります。

2 短歌は31音で表現する短詩ですから、同じ語には気をつけたいものです。強調するために意図的に語を繰り返す手法もありますが、まずは重複させずに作ってみましょう。

3 言葉の意味を辞書で調べ、選びましょう。
「ふと思う」は、急に思いついて偶然にという意味をもちます。これを「また思う」とすると、繰り返し思っているとなり深くなります。言葉のもつ意味を学び、よりびつたしの語を探しましょう。

上林 節江

―俳句の部―

皆様真剣に俳句に取り組んでいただきありがとうございます。
さすがに猛暑続きだった夏を取り上げた作品が多く見受けられましたが、素直に表現されており好感が持てました。

季重なりの句がいくらか見られましたが、季語は一句の中にできるだけ一つにして頂くといいと思います。また季語の説明はしないようにして頂くことも大事なことです。

今後とも歳時記を片手に、大いに季語を覚えて素晴らしい作品をものにできますように心より願っております。

鈴木 三山

―川柳の部―

入選は逃しましたが、「時間とは流れゆくもの止まらない」（盛岡少年院 K・Y）、「遠くの地愛しの母ちゃん頼に」（東北少年院 K・Y）も魅力を感じる作品でした。

さて、私は初めてこの選者を担当しました。ふだんと違いすると感じたことが二点あります。一つは、どの作者も制約された環境にいて、選者は先入観を持って作品を読んでしまうことです。過去への悔い、反省、親兄弟への感謝などは一人一人別で、同じ背景で理解するものではないはずですが、勝手に全部「立ち直る姿」で読んでしまいます。

二つ目は、世代の差。話の合わない孫と向き合っているような新鮮な感動をもらいました。川柳は現在の自分をそのまま表現する文芸です。同時に、どんな時でもユーモアを忘れないという伝統があります。優等生になるより楽だと思えますが。

水戸 一志

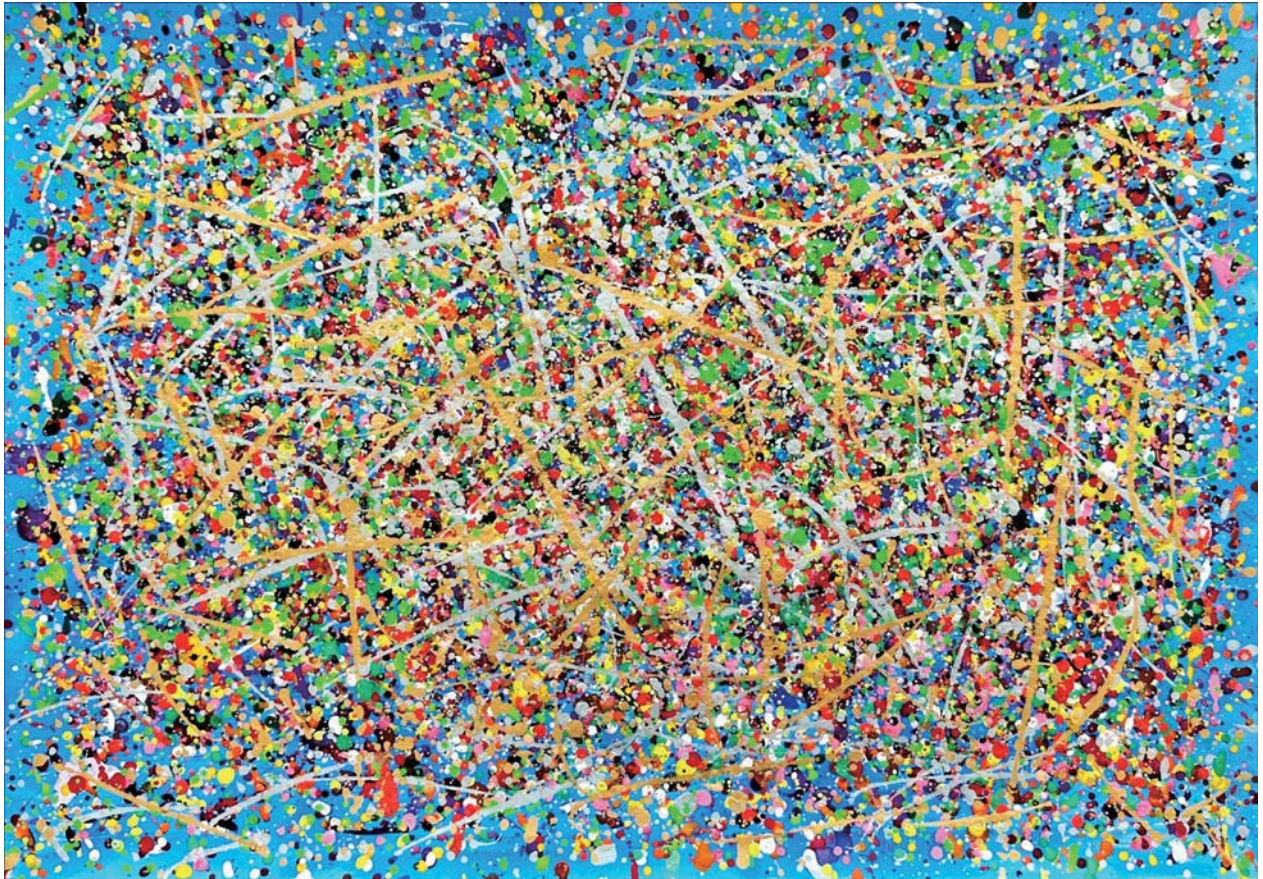


絵画の部

審査員

宮城県芸術協会理事長

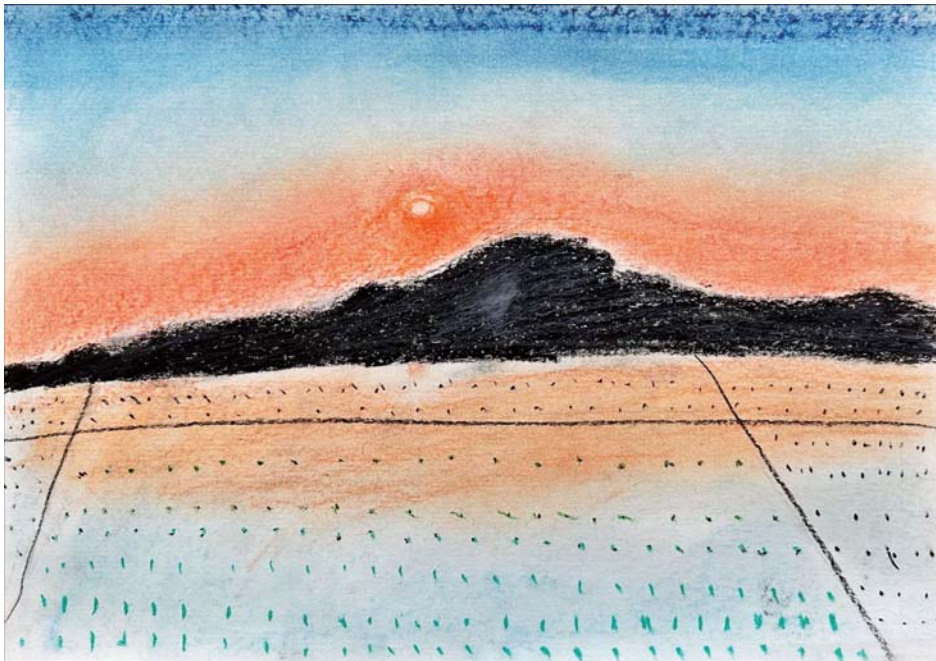
吉田 利弘 先生



My history

東北少年院 I・N

寸評：ドリッピング的技法を用い画面いっぱいに広がる色面構成が魅力的な作品。



6 時

盛岡少年院 A・R

寸評：朝の静けさが昇る朝日と水田に映る色合いに感じられる。
画題が象徴的。



花火大会

青葉女子学園 K・W

寸評：花火の文字が、まさに花火の色彩に溶け込み、きれいで、爽やかな画面構になっている。

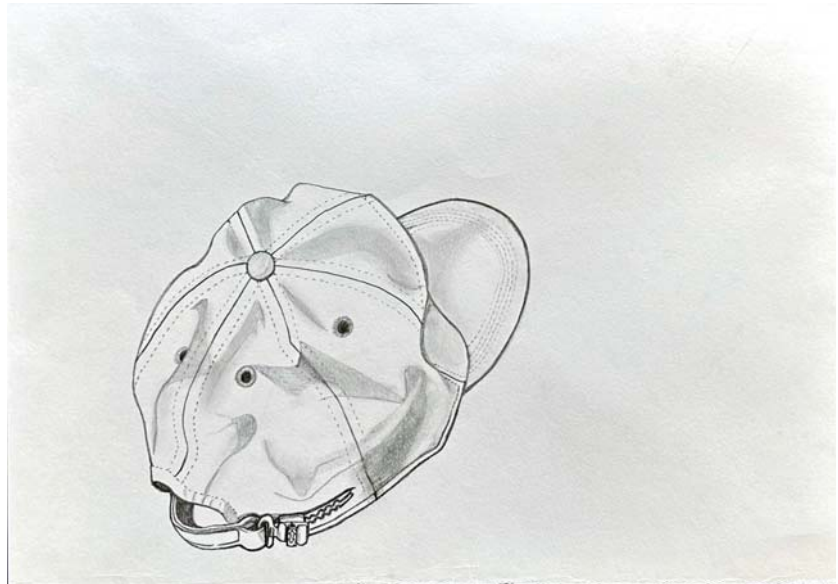


銅

帽子

東北少年院 G・Y

寸評：帽子一つというシンプルな構成とモノクロ表現に、見る人に様々な印象を提供してくれる作品。



銅

旅

盛岡少年院 O・R

寸評：大海原に浮かぶ客船と花瓶の花の構成に旅の思い出がほうふつとしてくるような作品。



銅

自分の夢に出てくる
海に浮かぶ華

盛岡少年院 A・R

寸評：背景を分割し、中央に一輪の花という構図的にも色彩的にも工夫された作品。





あじさい

東北少年院 G・Y

寸評：丁寧でしっかりした線描画に、見る人が様々な色彩を施して楽しめるような作品。



在来種と外来種

青葉女子学園 S・M

寸評：多様性が包摂されているような社会であることを植物画を通して表現された作品。



ToRii

盛岡少年院 S・D

寸評：昇る朝日の神々しさを、鳥居を描くことによって見事に表現された作品。



用水路

東北少年院 U・M

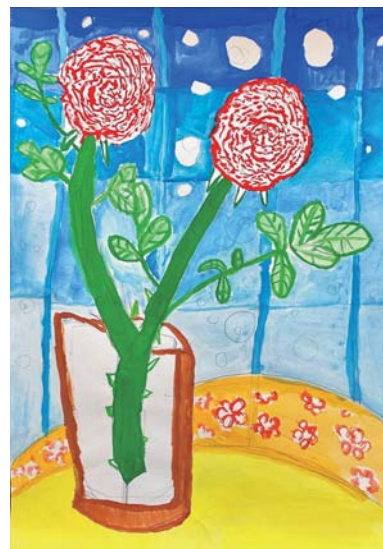
寸評：単純な構成ながら、用水路を流れる水に作者の思いが感じられる。



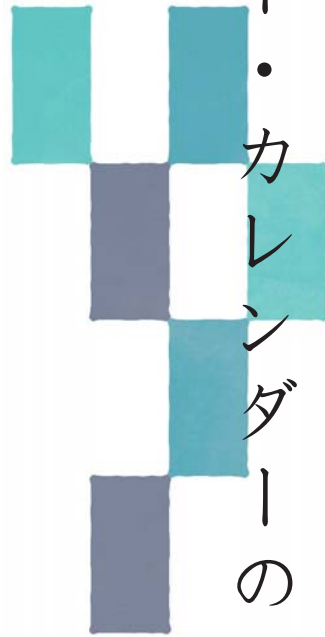
ガラスの花びん

盛岡少年院 S・R

寸評：省略された表現だけに、カーネーションを思わせる花卉の表し方に魅力のある作品。



ポスター・カレンダーの部



審査員

宮城県芸術協会運営委員

鈴木智枝先生



失われていく氷河

東北少年院 W・Y

寸評：色彩、図柄ともよくまとめられています。文字にもう一步のレタリングが欲しい。



銀

更生

東北少年院 G・Y

寸評：テーマに合う図柄です。文字はレタリングして。大きな画面を色鉛筆では大変です。絵具で彩色してみてもは。



銅

Real life

東北少年院 O・M

寸評：しっかりと彩色してあり目立ちます。文字の色を考えてみてはいかがでしょうか。



佳

令和6年10月

東北少年院 K・U

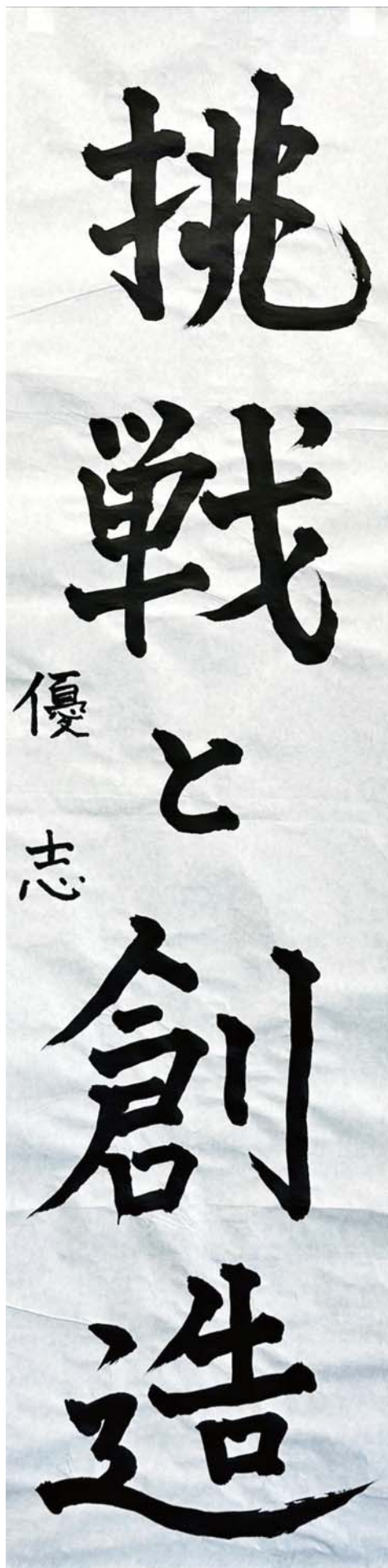
寸評：カレンダーとしての目的達成してます。色鉛筆での彩色は弱いのでポスターカラーを使って下さい。

毛筆の部

審査員

東北書道会副会長

村山
柳雅
先生



挑戦と創造

東北少年院 優志

寸評：難易度高めの漢字を書作したが、大きさ、字間、字形整い見事。



感謝

東北少年院 金

寸評：点画確実。小粒ながら線條深く、完成度高い。



無我夢中

青葉女子学園 た

寸評：大きく、堂々と書き上げ若さ溢れる。
字中の白も広く明るい。

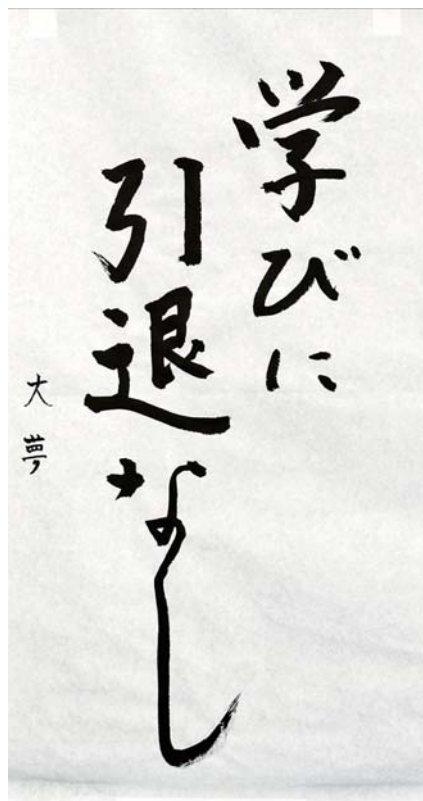




学びに引退なし

東北少年院 大夢

寸評：何よりも選文が良い。しっかりとした運筆も乱れなく好印象。



隠忍自重

青葉女子学園 よ

寸評：用紙いっぱいにダイナミックな作。余白の作りも均正がとれ秀逸。



自律自助

東北少年院 勇

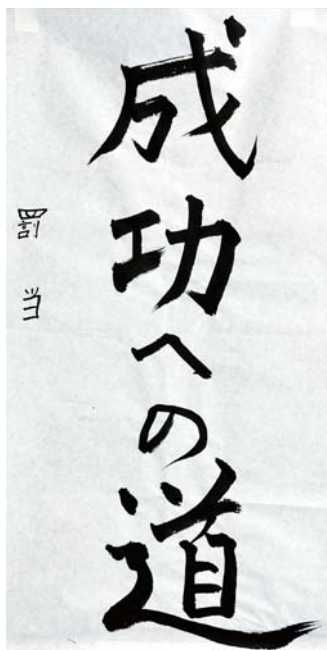
寸評：起・収筆・転折が確実に実力者の作。やや小さく残念。



慈愛の心

東北少年院 うと

寸評：横画が緩やかな曲線で優しい情緒を醸す。温和な作。



成功への道

東北少年院 罰当

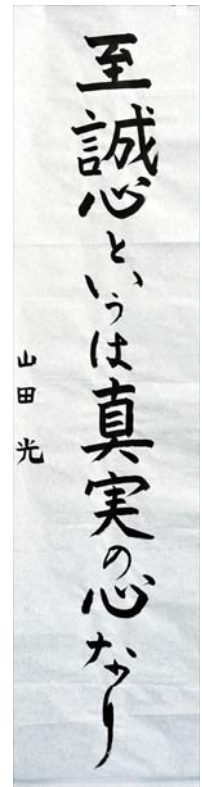
寸評：この作も漢字大きく、平がな小さめの鉄則をふまえ、よくまとめて書き上げた。



至誠心というは
真実の心なり

東北少年院 山田 光

寸評：漢字大きく、平がなは小さめ。バランス整い13文字を一行にうまくまとめた。



山田 光



破顔一笑

青葉女子学園 く

寸評：余白明るく優しい雰囲気溢れる。強い起筆は特に良い。



尊重

東北少年院 優

寸評：運筆に安定感があり、用筆も確実。起・収筆は実力者のよう。



優

硬筆の部



審査員

東北書道会副会長

村山 柳雅 先生

真鶴

伊豆半島の年の暮れだ。日が入って
風物すべてが青味を帯びて見られる
頃だった。十二、三になる男の子が小さい弟
の手を引き物思しきな顔つきをして、
深い海を見下ろす海岸の高い道を



真鶴

青葉女子学園 S・M

寸評：一画ごとの丁寧さが極立ち作品全体のまとまりは秀逸。

枕草子	清少納言	夏は夜。月の頃はさらなり。闇もなほ。螢の多く飛び違ひたる。また、ただ一つなどほのかにうち光りて行くもをかし。雨など降るもをかし。
-----	------	--



枕草子

東北少年院 O・N

寸評：タイトル、詩人名を大きめに、長い本文は小さめに、文字構成力が光る。

羅生門	芥川 龍之介	ある日の暮れ方のことである。一人の下人が、羅生門の下で雨やみを待っていた。広い門の下には、この男のほかには誰もいない。
-----	--------	---



羅生門

東北少年院 N・J

銀河鉄道の夜	宮沢 賢治	カムパネルラ、またぼくたち二人きりになったねえ、どこまでもどこまでもいっしょに行こう。ぼくはもうあのさそりのようにみんなの幸せのためなら、ぼくのからだなんか百ぺんやいてもかまわない。
--------	-------	---



銀河鉄道の夜

盛岡少年院 S・R

寸評：点画確実に書き進め、行の中心も乱れることなくまとめた。

寸評：丸味のある優しさ感じる文字は終始一貫、好感度高い。

書画部門審査総評

― 絵画の部 ―

昨年と同数の出品点数でしたが、それぞれに作者の思いが表現されています。同一の題材でありながら構図や色彩に違いがあり、自分をしっかりと主張し、工夫されていることが何よりです。今年も秋を彩る作品展となりました。

吉田 利弘

― ポスター・カレンダーの部 ―

どの作品も一生懸命さが感じられ納得です。ポスター、カレンダーどちらもレタリングされた文字があると、もっと良いものになります。四ツ切り画用紙を色鉛筆で塗ることは、とても大変です。ポスターカラーやアクリル絵の具にも挑戦してみてください。

鈴木 智枝

― 毛筆の部 ―

伸びとした若さ溢れる作品が多かった。半切は大きな文字群で勢いもあり迫力十分。見応えもあり。半紙は慎重で集中して書作した努力が目に見えた。

村山 柳雅

― 硬筆の部 ―

出品作は全て一生懸命に書いた作と感じられるが、入賞作はその中でも特に書き出しから最後まで集中を切らさず丁寧に書かれた作品となった。それぞれの個性を生かした中にも、集中力、丁寧さが大切であると感じられた。

村山 柳雅

編集後記

本年度も、みちのく書画文芸コンクールとして書画作品及び文芸作品の応募を募りましたところ、各施設からこれまでと変わりなく多数の作品が寄せられ、本書画文芸作品集の発刊の運びとなりました。

文芸作品については、御審査を賜りました先生方の多大なる御協力のもと、各分野において金賞、銀賞、銅賞及び佳作作品を選定することが叶いました。

紙面の都合上、一部しか掲載することができないことが残念です。

末筆になりましたが、本誌の刊行に当たり、御審査と御指導を賜りました先生方に、誌上を借りまして厚く御礼申し上げます。

仙台矯正管区